

【令和3年度 授業改善推進プラン】

板橋区立板橋第二小学校

【国語】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して意欲的に取り組む。簡単な文章は読み取ることはできるが、複雑な文や主語が省略されている文を正しく読み取ることが不十分である。また、自分の考えをもっているが、相手に伝えることが苦手な児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を正しく理解する力を身につけること。 ・他の人の考えを自分の意見や考えと比較しながらよく聞くこと。 ・様々な表現の仕方を身に付けること。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で理解したり、表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を行う。 ・自分の考えや調べて分かったことを発表し合う活動を通して、相手を意識した活動を工夫して取り入れていく。 ・スタディアップタイムで視写や校閲をし、文を書く、読む習慣づける。 ・主語と述語の関係や指示語の内容を確認する活動を通して、内容の理解を確かにするとともに、読み解く力を高める。

【社会】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から情報を正確に読み取る力が不十分である。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づいた考えを一人一人がもつこと、聞き手が理解できるように根拠をもとに発表すること。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やグラフ、表などの資料と、文章に書かれた内容と資料を対応させて読み取る方法を理解させる。 ・根拠となる資料と自分の意見を対応させて発表させる。 ・話し合い活動や学習の最後の振り返りで自分と友達の考えを比較することで考える力を向上させる。 ・タブレットPCを効果的に活用することで、学習内容の理解を深める。

【算数】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・知識理解と計算処理、図形の作図等の力に個人差がある。 ・既習事項から課題を解決する力が不十分である。 ・文章問題や応用問題になると、読解力に差があるため正答に個人差がある。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で解決することが困難である児童がいるので、個別に学習支援を充実する必要があること。 ・電子黒板やタブレット、デジタル教科書や実物投影機などを効果的に使って指導したいが、教室環境やPCのインストールソフトに差があること。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことを意識的に指導する。自分の考えを書いたり友達に伝えたりすることで、考えをより一層明確にし、修正できるようにする。 ・読み解く力の分類に基づいて、学び合いを意識させたり、友達の意見と比べて差異を見つけたりすることで、児童が主体となった話し合いを活発にできるようにする。 ・スタディアップタイムで作図タイムを設け、読みとったことを的確に描くことができるよう繰り返し指導する。 ・タブレットPCのミライシードを使い、児童自身の習熟度に合った問題を日常的に補習学習として活用する。 ・放課後教室、長期休業中の補習教室で、習熟度の低い児童への学習を補う。

【理科】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープへの日常的な触れ合いを通して、自然環境への豊かな感受性や、動植物の生命を守り大切にする姿勢が育まれている。 ・実験や観察において、既習事項から自分なりの根拠をもって予想し、結果から科学的に考察する力が育ってきている。 ・ノートに「自己の考え」をまとめる力が十分でない。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の見通しをもつ→自分なりの考えをもって取り組む→科学的に考える」という学習の流れを児童に定着させ、科学的なものの見方や考え方をを用いて、学習したことをノートに整理して書き表す力を育てる必要があること。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を整理し、考察する流れの中で、「予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現する」といった言語活動の充実を図り、科学的なものの見方や考え方をを用いて考察できるようにする。 ・児童にとって興味のある事象を提示し、関心を高めていけるように様々なアイデアを教員間で共有できるようにしていく。 ・タブレット端末を活用して、NHKの動画や共有ソフトで意見の交流や学習意欲の向上を目指せるようにする。

【生活】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープ等が生活に根付いていることもあり、生き物や植物に興味をもっている児童が多い。積極的に世話をしたり、その変化の様子に気付いたりすることができる。 ・調べたことや感じたことを絵や文で表現する際の、表現の仕方や意欲に偏りが見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見たことや感じたことなどを言葉や絵で表現すること。 ・表現したものを自分の言葉でわかりやすく友達に伝えること。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動前の話し合いや活動後の振り返り、伝え合い、表現活動などの言語活動を充実させ、気付きの質を高める学習活動を展開していく。 ・電子黒板や実物投影機を活用し、児童の興味や意欲を高めていく。 ・表現活動を中心に、他教科との合科的・関連的な学習活動を充実させていく。 ・できるだけ具体的な活動や体験を通して、身近な人や社会、自然と関わり合う機会を設定する。 ・タブレット端末の活用により、季節の発見を撮影したり意見の交流をしたりして、学習意欲の向上を図る。

【音楽】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動に意欲的に取り組むことができる児童が多い。 ・歌唱表現は歌ってもよい時は歌う喜びをかみしめながら歌っている。 ・表現内容によっては、思いや意図をもって表現することが苦手な児童もいる。 ・楽器の演奏には積極的に取り組んでいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・創造的に音楽づくりの活動に関わること。 ・コロナ禍にあり、思いや意図をもち、言語活動も用いて友達と協働して音楽活動を行い、表現の工夫をすることが難しい。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を体全体で感じながら友達と一体感を味わい、主体的・創造的に音楽づくりの活動に関わるができるよう、器楽合奏やいろいろなリズム活動を取り入れていく。 ・無理なく必要な知識・技能を習得できるよう、いろいろな活動の中で積み重ねをしていく。 ・活動形態は内容に合わせて一人、距離を開けてペア、グループなどの工夫をする。また自分の思いを言語化できるように音楽の言葉を示

	<p>し、それらを正しく使えるようにして共通理解を図り、みんなの思いに広げて協働しながら活動ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止のために、隣の座席と前後の間隔を開ける。歌唱は歌う時間を減らし、マスクをしたまま歌う。共用の楽器使用は、消毒できる物は消毒をする。出来ない物は事前事後の手洗い、消毒を行う。鍵盤ハーモニカは、小型のキーボードの練習に変え、リコーダーは、今後の感染状況を見ながら、飛沫が飛ばない、かからないような方法を考えて行う。 ・タブレット端末を活用して、MUSIC LABで音楽づくりに取り組む。
--	---

【図画工作】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童はおおむね図工の授業に楽しんで取り組むことができているが、中には技能面でのつまずきや、その結果学習意欲をもちづらい児童もいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中で計画を立てながら目的に向かって活動する力を育成すること。 ・作品作りにおける創意工夫への意欲の育成すること。 ・教科書の文章や図を用いて、読み解く力の育成を意識した授業展開をする。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を積極的に活用した授業展開をすることで、学習への意欲を向上させるとともに視覚的にわかりやすく情報を伝達することで作業の見通しをもちやすくさせる。特に、Chromebookの使用により個人最適化された学びの環境を生かし、教師が作成した資料(動画、プレゼンテーション、ドキュメントなど)を児童が必要なときに参照できるようにする。 ・教材研究に励み、児童に提供できる「創作のヒント」を増やす。 ・新型コロナウイルス感染予防対策のため座席レイアウトを工夫する。また、児童が密集しないような動線を考える。

【家庭】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書等の資料から、調理や裁縫についての方法を正しく読み取り、理解する力が不十分である。 ・興味・関心をもって調理や裁縫に取り組み、基本的な技能は身に付けているが、学習内容と実生活は結び付いていない。実習で、身に付けた技能を実生活で生かしていく力が不十分である。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文を正しく読み取らせる指導が弱い。写真や動画のみから分かったことを発表したり実践したりすることにとどまっている。 ・技能面での個人差が大きく、個に応じた指導を工夫していく。 ・新しい生活習慣を守るため、年間の学習計画を柔軟に変更していく必要がある。特に調理関係の実施時期は適切に判断しなければならない。 ・教材教具の提示方法を工夫するとともに、安全面の指導を徹底し、それを実践できるようにする。 ・児童の実践の様子を教師が把握しきれておらず、個に応じた指導が不十分である。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・写真、動画と文をしっかりと関連付けて、教科書の説明を丁寧に取り上げて学習を進めていく。「どのように」「何を」「どれくらい」など、教師の問い返しを加え理解を深められる授業展開をする。 ・学習したことが日常の家庭生活に生かされるよう、常に学習と実生活を関連させた授業を展開する。また、実践報告などの学習を多く設定し、学んだことを自分の言葉で振り返り、まとめさせる。 ・ICT機器の活用をし、実践の様子を写真や動画に撮って個々の実践の様子をとらえていく。

【体育】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が楽しんで取り組んでいる反面、苦手意識をもっている児童もいる。 ・技能面では個人差が目立つ。 ・目的意識がはっきりとせず、言われて動いている児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な運動についてのアドバイスについて、研修を充実していく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努める必要がある。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のめあてに対して振り返りを行う時間を設定する。 ・スモールステップの場を作り、どの児童にも達成感を味わわせられるようにする。 ・友達同士で教え合い、課題を解決していけるようにする。 ・学習カードを活用したり、適宜児童が参考にできるような資料を用意したりして何に取り組めばよいのかをわかるようにする。 ・練習の仕方をどのように工夫させたり、また、それをできるようにしていくか声かけや指導をしたりしていく。 ・校内の教員が活用できるようにワークシートや学習カードを共有していけるようにしていく。 ・陸上運動や縄跳びなどの3つの密を避けられるような運動内容の単元を1、2学期に移動する。 ・器械運動領域を中心にタブレット端末を使用し、自分の試技を画像や映像で確認できるようにして、課題解決していけるようにする。 ・活動中は熱中症対策、呼吸のしにくさなどを考慮して、十分な距離を取った上でマスクを外させたり、活動の前後で手洗いや消毒を行ったりしながら、新型コロナウイルス対策をしつつ、体育の活動が行えるように工夫していく。

【外国語活動】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語でのあいさつやアクティビティに意欲的に取り組んでいる。ALTにもあいさつをしたり簡単な質問をしたりして積極的に関わっている。 ・本時のねらいに沿って学ぶことはできているが、既習内容を組み合わせることで応用していくことが難しい。 ・英語に親しんでいる児童は多いが、理解度の個人差が大きくなっている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が使用できるクラスルームイングリッシュの幅を広げ、短く簡潔な指示で授業を行えるようにすること。 ・学年の発達や個々の習得状況に応じた指導内容の工夫が必要である。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>担任とALTが連携うまく連携をしながら、授業の「ねらい」を達成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT(音声教材・動画・書画カメラ等)を活用し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の理解を深めさせる。 ・繰り返し聞いて記憶していくだけではなく、日常のどのような場面で使えるかを意識させながら学習を積んでいく。 ・読み解く力の育成をめざし、「イメージ同定」や「具体例同定」の視点でイラストや写真、動画の活用をしていく。

【総合的な学習の時間】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集する力や調べたことをまとめる力に比べ、自ら課題を見付けたり、課題解決のために情報を整理したり、分析したりして考える力と自ら工夫して表現したり、発信したりする力がやや不十分である。 ・インターネットを活用し、情報を収集した後、児童が「他者から得た情報」なのか「自分の考え」なのかを意識して発信できていない。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を児童が自ら見付けていくために児童が意欲的・主体的に取り組めるような単元計画、指導計画、授業における教師の関わりなどの工夫、改善の必要がある。 ・新型コロナウイルス感染予防対策のため、課外活動やインターネットでの調べ学習、パワーポイントを使った資料作成を行うことが難しい。 ・各学年の学習課題がSDGsの実現にどのように関連するものなのかを、教師が更に意識を高めて取り組む必要がある。 ・一人一台端末を学習形態に合わせて活用させる指導が不十分である。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元づくりにおいて探究的な活動の流れ(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を重視し、各段階の活動の目的や必然性を意識した授業を実施する。 ・体験的活動を取り入れたり、共通体験の場を設定したりして児童探究意欲を高める。また、児童自ら課題解決に向かえるようにするため、活動の方向性を決める時や情報を分析したり、意思決定が必要となったりした際、話し合いの場を設定する。 ・児童が情報収集に必要な図書資料を学校の司書や地域の図書館の司書に依頼して集める。 ・発表を行う際は、プレゼンソフトの代わりに手書きのイラストや印刷した資料、電子黒板を活用する。 ・今年度は資料収集やまとめ・表現活動よりも資料の整理や分析、発表に対する意見の交流に重点を置いて指導を行う。 ・タブレットパソコンをインターネットからの情報収集のみにとどまらず、学級・学校での意見交流の場として活用していく。

【道徳】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを素直に発表することができる児童が多い。 ・道徳ノートに思いを書き、表現できる児童も増えてきた。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童の一問一答やりとりが多く、発言する児童が固定化していること。 ・ペア同士で話し合う、全体で伝え合う場が少ないこと。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(デジタル教科書等)活用しながら、教材提示を視覚的にを行い、教材の世界に浸るようにさせる。 ・ペア活動、集団での話し合い活動を多く取り入れる。 ・「自分だったら」という観点で考えながら、一人ひとりが自己を振り返る場の設定をする。 ・道徳科の評価の研修を重ね、共通理解を図る。 ・オクリンクやJamboardを活用し、全員が意見を共有する場を作る。

すべての教科で実践すること

- ・授業のはじめにねらいを確認する
- ・ノートに自分の考えを書かせる。
- ・振り返りで分かったことや考えたことを説明させたり書かせたりする。